

The **CONTEMPORARY JAZZ SERIES**
ジャズギター・アドリブブック

Jazz Guitar Adlib Book

新装改訂版

加藤 泉一著



CAD
CHUO ART PUBLISHING CO., LTD.

はじめに

「アドリブを弾けるようになりたい。
自由に弾けたら、どんなに楽しいだろう…」
私は、初めてギターを手にした時、そう思いました。
でも、その方法が分からなくて随分悩んでいました。

ある日、その方法が見つかり、どんどん上達していきました。
その方法とは、ごく簡単なものでした。
例えば、幼児が言葉を覚える過程を考えてみてください。
単語から熟語、とにかく覚えた言葉をつなげていって、
気がついたら自分の言葉で表現してしゃべっています。
ジャズのアドリブも同じで、
しゃべりたいことを思った通りに表現できることが、頂点と言えるでしょう。
しかし、しゃべれるようになるまでには、
一つ一つ階段を上がっていくように、フレーズを覚えていくしかないのです。
ただ、数小節にもおよぶ長いフレーズを一度に覚えることは、
言葉と同じで大変困難なことです。
よく、ある奏者のアドリブを一曲丸々コピーして、必死に覚えて、
それを弾いている人を見かけますが、
それは例外なく良い方法とは言えません。
その曲だけにしか使えないし、時がたてば必ず忘れてしまうでしょう。
それに、大体それではアドリブとは言えません。

私が本書で一番書きたかったことは、
たくさん曲で自由にアドリブを弾けるようになるための方法です。
でも、そうなるためには、
時間もかかるし、また、この本一冊だけでは到底及ばないでしょう。
しかし、本書で「近道」は必ず見つかるはずですよ。
私は、読者の皆さんがこの一冊の本から
そのチャンスを見つけることができれば、とても嬉しく思います。
みなさん頑張ってください。

1997年

加藤 泉

CONTENTS

はじめに
発刊によせて
本書の内容と使い方

PART 1 アドリブについて

練習曲 1	Fly Me To The Moon	10
練習曲 2	Days Of Wine And Roses	22
	転調のしかた - 1	29
練習曲 3	I'll Close My Eyes	34
	転調のしかた - 2	36
練習曲 4	There Will Never Be Another You	41
練習曲 5	It Could Happen To You	45
練習曲 6	Our Love Is Here To Stay	49

PART 2 コードとスケール

ダイアトニック・スケールとコード	58
ダイアトニック・コードに対応したグレゴリアン・モード	58
キィFのメジャー・スケール	59
ダイアトニック・コードに対応した グレゴリアン・モードスケールとコード・ポジション	62
(1) イオニアン・スケール	62
(1') リディアン・スケール	63
(2) ドリアン・スケール	64
クリシェ	65
(3) フリジアン・スケール	66
(4) リディアン・スケール	67
(5) ミクソリディアン・スケール	68
(6) エオリアン・スケールとドリアン・スケール	69
(7) ロクリアン・スケール	70
(7') オルタード・ドリアン・スケール	71
コードの分散和音とベントニック・スケール	72
TYPE - A	72
TYPE - B	76
TYPE - C	78

ドミナント・7th・コードとスケール	80
C7 (V7)	80
1. オルタード・ドミナント・7th・スケール	80
2. コンビネーション・オブ・ディミニッシュト・スケール	84
3. ホール・トーン・スケール	86
4. 4度のメロディック・マイナー・スケール	88
5. 4度シャープのディミニッシュト・スケール	88
4度のマイナー・スケールと4度のシャープのディミニッシュト・スケールが使える理由	89
A7 (III7)	90
1. ハーモニック・マイナー・スケール・パーフェクト・5th・ビロウ	90
2. オルタード・ドミナント7th・スケール	91
3. コンビネーション・オブ・ディミニッシュト・スケール	91
D7 (VI7)	92
1. ハーモニック・マイナー・スケール・パーフェクト・5th・ビロウ	92
2. オルタード・ドミナント・7th・スケール	93
3. コンビネーション・オブ・ディミニッシュト・スケール	93
E7 (VII7)	94
1. ハーモニック・マイナー・スケール・パーフェクト・5th・ビロウ	94
2. オルタード・ドミナント・7th・スケール	94
3. コンビネーション・オブ・ディミニッシュト・スケール	95
E♭7 (♭VII7)	96
1. リディアン・ドミナント・7th・スケール	96
G7 (II7)	97
1. リディアン・ドミナント・7th・スケール	97
B♭7 (IV7)	98
1. リディアン・ドミナント・7th・スケール	98

PART 3 付録

用語の説明	102
調の早覚え	104
練習曲のコード進行早見表	107
本書で使われたスケールと省略記号	109

あとがきにかえて

本書の内容と使い方

●本書の構成

本書は次のように構成されています。

①< PART1 >ではタブ譜、< PART2 >ではポジション表を記してあります。読譜力の有無に関わらず、運指等を参考にして下さい。

②< PART1 >では、ジャム・セッションなど実際の場で、すぐに役立つようジャズ・スタンダード曲ばかりを扱いました。

③全部で111ものフレーズは、この本にでてくる曲以外にもさまざまな曲に対応出来るものです。どんどん活用して使って下さい。

また、本書にはCDが付属しています。上手に活用するために、

④フレーズを覚えた時ごとにCDを聴いて、音の延ばし方や強弱などのアーティキュレーションを研究して下さい。

そして、実際に演奏する機会があったら、

⑤必ず、自分の音を録音機器などに録音して下さい。自分の音を聴くということは、とても大事なことです。

もし、これを怠ると音は『流されて行ってしまう』だけです。

⑥録音したものを聴いて自分の『悪い所』は反省し、改善して行き、また、『良い所』を見つけて下さい。必ずあるはず。そして『何で良いのか』研究するのです。

自分の悪い所と良い所を理解している人ほど、上達も早いでしょう。

勿論、本書と平行して一流ジャズ・プレイヤーのアドリブをコピーすることも大切です。< PART2 >『コードとスケール』を学習している時だったら、自分がコピーしたフレーズが何のスケールから成り立っているのか、考えてみるのもおもしろいでしょう。

⑦なお、< PART1 >と< PART2 >は独立した内容になっていますので、< PART1 >を学習中に分からない事が出てきたら、そのつど平行して辞書代わりに< PART2 >を開いてみるのも良いでしょう。

●キィについて

私たちがジャズを演奏する時、ヴォーカルの伴奏以外は、ほとんどオリジナル・キィで演奏しますが、ジャズ・スタンダード曲には様々なキィの曲があります。そのすべてのキィを、特に初心者の方が一度にマスターすることは困難なことです。

では、どのキィから取りかかれば良いか、ということになります。

それは、やはりジャズ・スタンダードの中で多く使われているキィから覚えていく方が、先々応用が効きジャズを学ぶ上での近道と言えるでしょう。

そこで実際にジャズ・スタンダード曲を調べていくと、キィFが非常に多いことに気がつきます。また、キィFの曲には比較的やさしい曲もたくさんあり、初めてジャズを勉強する人にとって最適なのです。

まず、キィFの曲から入り、慣れてきたら徐々に他のキィに挑戦してみてください。本書では、それに必要な転調の仕方についても述べられています。

PART 1

アドリブについて

アドリブを学習するというとは、文章を書くことによく似ています。皆さんは文章を書く時どうしますか。

たいていの人は、まず、どんな内容の文章にするか決め、書き始めると思います。そして、その文章を組み立てるために、適切な文法を考えます。

もちろん、一つ一つの単語を選びながら書いていくわけです。

こう言うと、いかにも堅苦しいし、「私は、そこまで考えて書いていない」と、思う人もいるでしょう。

しかし、私たち日本人が日本語で文章を書く場合はそうかもしれませんが、もし、これが他の国の言葉だったら、そう簡単にはいかないはず、です。

そして、あなたがもしーからアドリブを学習するのであるなら、この環境にとってもよく似ていると私は思います。

アドリブを弾くことと、文章を書くことを比較してみると、

- ①文章 ————— 曲
- ②文法 ————— コード進行
- ③単語 ————— フレーズ

といえるでしょう。曲というのはいくつものコード進行からできていて、そのコード、進行にそって表現していくものがフレーズです。そして、上の三つを理解してはじめてアドリブを弾けるようになるのです。

それでは、曲、コード進行、フレーズの三つをそれぞれ考えていくことにしましょう。

Fly Me To The Moon

<練習曲 1 >

コード進行の基本である、II m7—V7（トゥー・ファイブ）（P.102 参照）が多用されている“Fly Me To The Moon”です。

まず、曲のメロディとコード進行を覚え、次にアドリブを弾くためのフレーズを覚えていきましょう。

曲のメロディ、コード進行、フレーズを早く覚えるには、次の点を心がけて練習しましょう。

- ①一度弾いたら、次は楽譜を見ないで弾いてみます。
- ②分からないところだけ、もう一度見て練習します。
- ③何も考えなくても弾けるようになるまで、①と②を繰り返します。
- ④焦らず、始めはゆっくりのテンポから、だんだん速くして行きます。

【I】メロディ

Words & Music by Bart Howard

Musical notation for the first line of the melody. The staff shows notes with a large "SAMPLE" watermark overlaid. Chords above the staff are Dm7, Gm7, C7, F, and F7. Chords below the staff are Em7(b9), A7, and m7.

Musical notation for the second line of the melody. The staff shows notes with a large "SAMPLE" watermark overlaid. Chords above the staff are Gm7, C7, Am7, and D7. Chords below the staff are Em7, A7, and Am7(b5). A first ending bracket is shown above the staff.

Musical notation for the third line of the melody. The staff shows notes with a large "SAMPLE" watermark overlaid. Chords above the staff are m7 and (b5) Em7.

Copyright 1954 by Palm Valley Music, LLC.
Rights for Japan controlled by TRO Essex Japan Ltd., Tokyo
Authorized for sale in Japan only

【Ⅱ】使用コード

	I	II	III	IV	V	VI	VII
ダイアトニック・コード	F	Gm7	Am7	B♭	○C7	Dm7	Em7(♭5)
ドミナント・セブンス・コード	○F7		Am7(♭5) ●A7			●D7	

※ ○●◎は使用できるスケールの属性です。

(ローマ数字は、度数<P.102 参照>を表します。)

○ = V7

● = III7、VI7、VII7

◎ = II7、IV7、ダイアトニック以外の□7コード

【Ⅲ】フレーズ

それでは、アドリブを弾くためのフレーズを覚えていくことにしましょう。

まず、ゆっくりのテンポで練習する事がポイントです。そして、もし奏法的に難しく、どうしても弾けないフレーズがあったら、それはチェックしておいて、とりあえず先に進みましょう。

学習が進み、ギターの技術が向上した時にまたトライしてみてください。

練習上の注意

- ① 「 $\text{F} \longrightarrow$ 」の中の記号はスケール名です。PART 2で説明していますのでPART 1を終了してから参照して下さい。
- ② フレーズの中にはパッシング・クロマチック・ノート（コード・トーンやテンションなど、音と音の間を半音階で結ぶ音）や、ディレイド・リゾルブ（一つの音に対して、上と下から半音で遅れて解決させる）を使っているものが沢山あります。（パッシング・クロマチック・ノートの詳しい説明は、P.102を参照して下さい。）
- ③ (II m7 (Gm7) はドリアン・スケール (PART 2で説明します) を使用しますが、その中にあるメジャー・セブンス (M7) の音もジャズでは頻繁に使われます。
- ④ フレーズによっては、「先行」が行われているものもあります。これは、フレーズの流れによってそうなるのですが、1拍以内ならば、先行出来るのです。

EX.1 Gm7—C7—(F)

この進行は、この曲中1コーラス（1コーラスについてはP.103参照）で6回も出てきます。

一つのフレーズを、どの場所でも使えるわけですが、逆を言うと、たくさんのフレーズを覚えなければワン・パターンになってしまいます。

CD 1
a

Chords: Gm7, C7, Alt.7th, F

Bass line: 7 7 5 8 7 8 7 6 | 5 8 4 5 4 6 5 8 | 7

CD 2
b

Chords: Gm7, C7, Alt.7th, F

Bass line: 8 5 7 6 5 7 8 5 | 6 4 5 7 4 5 4 6 | 5

CD 3
c

Chords: Gm7, C7, Alt.7th, F

Bass line: 7 8 7 5 5 7 8 5 7 | 4 6 4 5 4 6 6 3 | 5

d

Chords: Gm7, C7, IVm, F

Bass line: 5 8 7 5 8 6 5 7 | 5 8 8 5 4 8 5 6 | 7

I'll Close My Eyes

<練習曲3>

今まで2曲のフレーズを覚えてきましたが、それらを応用して“I'll Close My Eyes”を覚えていくことにしましょう。

【I】メロディ

The musical score is written in treble clef with a key signature of one flat (Bb) and a common time signature (C). It consists of five staves of music. The first staff begins with a whole rest, followed by a repeat sign and a series of chords: F, Em7^(b5), and A7. The second staff continues with Dm7, G7, Cm7, and F7. The third staff starts with Bb, Bbm(Bbm7), and Eb7, followed by a first ending bracket over an F chord. The fourth staff shows a second ending bracket over Am7, D7, Gm7, C7, Am7, and Eb7. The fifth staff concludes with D7, Gm7, C7, F, (D7), Gm7, and C7, ending with a double bar line.

【Ⅱ】 使用コード

	I	II	III	IV	V	VI	VII
ダイアトニック・コード	F	Gm7	Am7	B♭	○ C7	Dm7	Em7(♭5)
				B♭m (B♭m7)			
ドミナント・セブンス・コード	○ F7	◎ G7	● A7			● D7	● E7
ダイアトニック以外のコード						◎ E♭7	

【Ⅲ】 フレーズ

EX.1 Em7(♭5) — A7 — (Dm7)

“Fly Me To The Moon” EX. 3 (P.16 ~ 17 参照) を、そのまま使用出来ます。

EX.2 Dm7 — G7 — (Cm7)

“The Days Of Wine And Roses” EX. 5 (P.27 参照) を、そのまま使用出来ます。

また別の考え方として、この後に出てくる B♭ をトニック (I 度) として考えると、ここの Dm7 — G7 — (Cm7) は III m7 — VI7 — (II m7) になり、“Fly Me To The Moon” EX. 4 (P.18 参照) を、4 度上または 5 度下へ転調させて使用することが出来ます。

このように、B♭ を単なる IV 度と考えるか、それとも I 度として考えるかによって、より多くのフレーズを使い分けて弾くことが出来ます。

EX.3 Cm7 — F7 — (B♭)

転調させて使用しますが、ここでは、B♭ のトゥ・ファイブですので、“Fly Me To The Moon” EX. 1 (P.12 ~ 14 参照) を、4 度上または 5 度下へ転調させることになります。

PART 2

コードとスケール

〈PART1〉ではフレーズを徹底的に練習しましたが、それらのフレーズが何を基にしてできているかが分かれば、さらに発展させることも可能になります。

この〈PART2〉では、アドリブ・フレーズの理解を深めるためコードとスケールを学習します。

ダイアトニック・スケールとコード

「スケールがあるから、コードがある」と言われるくらいに、この2つは密接に関係していて、スケール内には常にコードが存在しています。

スケールの最も基本的なものとして、ダイアトニック・スケール（それぞれのキの全音階のことで、メジャー・スケールと一致しています）があり、そのダイアトニック・スケールの1度、3度、5度、7度（M7）を、まるで「串団子」のように積み重ねてできた和音が、ダイアトニック・コードです。

ここでは、PART 1 で採り上げた練習曲との関連でキFで説明していきましょう。

注) ローマ数字は度数を表します。また、数字もそのコードに対する度数を表します。

The image contains two musical diagrams. The first, titled 'ダイアトニック・スケール' (Diatonic Scale), shows a treble clef staff with a key signature of one flat (F major). The notes F, G, A, B^b, C, D, E are written as whole notes on the staff. Below the staff, Roman numerals I through VII are aligned with the notes, with an arrow pointing from the label '度数' (Degree) to the numeral I. The second diagram, titled 'ダイアトニック・コード' (Diatonic Chords), shows the same treble clef staff with chord symbols: Fm7, Gm7, Am7, B^bm7, C7, Dm7, and Em7^(b5). Below the staff, Roman numerals I M7 through VII m7^(b5) are aligned with the chords, with an arrow pointing from the label '度数' to the numeral I.

ダイアトニック・コードに9度、11度、13度（これらをテンション・ノート、略してテンションといいます）のいずれかを加えるか、または重複させて加えると、さらにコードに厚みが出てジャズ特有のサウンドになります。

ただし、必ずしもすべてのコードにテンションを加えなければいけないわけではありません。3和音しか弾かないこともありますし、それは自由なのです。

ダイアトニック・コードに対応したグレゴリアン・モード

次に示すものは、それぞれのダイアトニック・コードに対応したグレゴリアン・モード・スケール（イオニアン・スケール、ドリアン・スケール、フリジアン・スケール…など）と実際にギターを弾く時に使うコード・ポジションです。

このコード・ポジションを実際に音にしてみると、上の譜例2のように積み重ねられていない場合があります。ギターはピアノと違って「クロス・ヴォイスング（音と音とが接近している）・コード」の使用が困難なことが多いのです。そこで「オープン・ヴォイスング」（1つ、または2つの音を1オクターブ上げるか下げるかして、音と音の間を広げる）を使って弾きます。

さて、これからスケールやコードとテンションを覚えていくわけですが、これらはあくまでも平行して、位置関係を照らし合わせながら覚えていって下さい。

例えば、このスケールとこのコードでは、ルート（1度）、3度、7度（M7度）、テンションが、それぞれどこの位置にあるか、などを確かめていきます。

そして、これらを覚えるには頭だけで覚えなくて、実際にギターを使って指で覚えて下さい。指に覚え込ませることで、思考の早さで弾くことができるようになるのです。頭だけで覚えてしまうと、いわゆる「頭デッカチ」になってしまい、いざ演奏となるとうまく弾けなくなってしまいます。

ここで示すコード・ポジションは、ごく一部ですが、スケールやコードとテンションの位置関係を照らし合わせるために必要なものとなります。

キィFのメジャー・スケール

本書のほとんどで扱うキィ（調）であるFのメジャー・スケールを、初心者の方のために記載しておきましょう。

● Fメジャー・スケールー 1

指番号
1 2 4 1 2 4 1 2 4 1 3 4 1 3 4

フレット
1 3 5 1 3 5 2 3 5 2 3 5 3 5 6 3 5 6

ギターの指板上での位置

フレット	1	2	3	4	5	6
6弦	● 1		● 1		● 3	● 4
5弦		● 1	● 2		● 3	△ 4
4弦		● 1	△ 2		● 4	
3弦	● 1		● 2		● 4	
2弦	△ 1		● 2		● 4	

△ — ルートの位置

指番号
1 — 人差し指
2 — 中指
3 — 薬指
4 — 小指

● Fメジャー・スケールー 2

指番号
1 2 4 1 2 4 1 3 4 1 2 4 1 2 4

フレット
5 6 8 5 7 8 5 7 8 5 7 8 5 6 8 5 6 8

ダイアトニック・コードに対応したグレゴリアン・モード・スケールとコード・ポジション

(1) から (7) までのスケールは、すべてダイトニック・スケール上を通過します。●で示す音は「アヴォイド・ノート」と呼ばれ、コード・トーンにもテンションにも当てはまらない音です。これは、コード・サウンドに障害を来すため省略されます。ただし、8分音符以下の長さでなら、使用は可能です。

(1) イオニアン・スケール

テンションの度数 → 9

コード・トーンの度数

コード・ポジション

数字 = フレット。
○内の数字 = コード・トーンまたは、テンション
] = セーハ。× = 弾かない弦またはミュート。

数字 = コード・トーン
()内の数字 = テンションまたは、コード・トーンに属するテンションと同等の音。

(a) FM7 (IM7) 5 6 7 8

(a) F6 (5度省略) 6 7 8

(b) FM7 3 4 5

(b) F6 1 2 3

(c) FM7 8 9 10

(c) F6 3 4 5

(c) FM7 1 2 3

(d) F6 (5度省略) 7 8 9 10

..... テンションの含まれるコード

(d) FM9 (5度省略) 7 8 9

(e) F6⁹ 7 8 9

(1') リディアン・スケール

曲想によってトニック・コード (I) は、ダイアトニック・スケール上にない音の B 音 (#11) をテンションとして使うことができます。そして、その音を通過するスケールのリディアン・スケールが使われます。

F リディアン・スケールは、C イオニアン・スケールと一致します。

The diagram illustrates the F Lydian scale and its application in guitar playing. At the top, a musical staff shows the scale starting on F, with notes F, G, A, B, C, D, E, F. The B note is marked as #11. Above the staff, two chords are shown: F M7 (#11) (IM7) and F 6 (#11) (I 6). A label 'テンションの度数 → 9' points to the B note. Below the staff, four guitar fretboard diagrams (a, b, c, d) show different voicings for these chords. Diagram (a) shows F M7 (#11) with notes 1, 3, 5, 7, 9, 11. Diagram (b) shows F 6 (#11) with notes 1, 3, 5, 7, 9, 11. Diagram (c) shows F M7 (#11) with notes 1, 3, 5, 7, 9, 11. Diagram (d) shows F M9 (#11) with notes 1, 3, 5, 7, 9, 11. Arrows connect the notes in the diagrams to the corresponding notes in the staff above.

あとがきにかえて

本書を真剣に取り組んだ人達に、まず、感謝の言葉を贈りたいと思います。

そして、これからも本書を土台として、
ワン・ステップ上のアドリブ・プレイヤーへと成長されていくことを、
心から応援します。

ただ、少しアドリブを弾けたからと言って、
「天狗」になってはいけません。

あなたのアドリブ・プレイヤーとしての人生は、
今始まったばかりです。

ここで学んだことは、『最初的一步』なのですから…。

末筆になりましたが、本書出版にあたり絶大なる協力をいただいた
中央アート出版社社長吉開狭手臣氏、担当の仙田尚久氏、
本書付録CDのレコーディングにおいて、パッキングを担当していただいた
ジャズ・ギタリストの矢崎哲也氏、そして、
ジャズ・ドラマーのジミー・スミス氏より推薦の言葉を贈っていただき、
心から至上の感謝を申し上げます。

《加藤 泉プロフィール》JAZZ GUITARIST

東京生まれ。19才よりプロとして活動、ジャズ・ギタリストの潮先郁男氏に8年間師事する。入学1年後に稲森康利(p)カルテットに参加、その後、田畑貞一(ds)カルテット、オールアメリカン・グループ"aka-DIG"や、ジミー・スミス(ds)カルテットなどを経て、1998年以降アメリカのトップミュージシャンとのレコーディングを幾度も重ねる。現在自己のリーダー・グループで都内及び全国のライブハウス、コンサートホールで活躍している。

【リーダーアルバム】

- The Indicationインディケーション 1998,12
- The Best Things In Life Are Free 自由は最高 2005,12
- Remember LIVE at P's Bar 2012,11

【参加アルバム】

- From The Heart / ジミー・スミス・クインテット 1998,4
- You Don't Know Me / ヨーコ・サイクス(vo) 1999,1
- Little Things Mean A Lot / 細川綾子(vo) 1999,3
- But Beautiful / ベティ・ブライアント(vo) 1999,6
- Song For My Father, Live at Tokyo Body & Soul / カリフォルニア・ウエーブ 2000,7
- My Winter Wonderland / ヨーコ・サイクス&フレンズ 2000,10
- It's Wonder Full! / 峰 純子(vo) 2000,10
- Maiden Voyage(Trio Meets Blueberry Jam Bigband)/渡辺謙次(ds) 2001,9
- The BISONs vol.1 / バイソン片山(ds) 2003,2
- The Jack in The Box / 伊原康二(org., p) 2006,12 その他多数。

共演者は、ジョージ・ギャフニー(p)、ビル・カンリフ(p)、ギルド・マホネス(p)、レイ・ビジー(as)、ハーマン・ライリー(ts)、チャールズ・オーエンス(ts)、ジョン・ハード(b)、パター・スミス(b)、ルイズ・スピーアーズ(b)、トーマス・ガーガノ(b)、ポール・ハンフリー(ds)、ロイ・マカーディ(ds)、ジェイムズ・ガドソン(ds)、フランク・ウィルソン(ds)、ジミー・スミス(ds)等、世界の一流ミュージシャンと共演、レコーディングしている。また、ギター教育にも力を注ぎ、自己のギター教室を開設し多くのギタリストを育てている。著書に「ジャズギター・アドリブ教本」「コンテンポラリー・ジャズギター② / イントロ&エンディングの技法」「クラシク・イン・ジャズギター②、④、⑤」「ジャズギターG30」「Jazzyに聴かせるクラシク②、④」(共に、中央アート出版社刊)がある。



《CTAジャズギター教室》

自宅 04-2943-2155
携帯 090-2175-8536
(e-mail) izmcat@ybb.ne.jp

★Skypeを使ったインターネットレッスンを始めました。詳しくはホームページをご覧ください。

《オフィシャル・ホームページ》 <http://izumikato.web.fc2.com/>

Recorded and Mixed by TOSIAKI YAMAYA (CoCo STUDIO)

Assisted by MASUMI YAMANE (CoCo STUDIO)

Recorded and Mixed by CoCo STUDIO

Masterd by KOHJI NODA

(VIVTOR COMPANY OF JAPAN,LIMITED)

Coordinated by MIKIO WATANABE

HITOSHI HIRAKAWA

MUSICIAN

Guitar IZUMI KATO

Guitar : Gibson ES-175

Amp. : Peterson

Guitar TETSUYA YAZAKI

Guitar : Gibson Les Paul Custom

Amp. : Fender Twin Reverb

ジャズギター・アドリブブック 新装改訂版

C130530-1(1,0x)

2002年 7月25日 初版第一刷発行

2013年 5月30日 新装改訂版第一刷発行

著 者：加藤泉

発行者：吉開狭手臣

発行所： 中央アート出版社

〒101-0031 東京都千代田区東神田1-11-4

TEL 03-3861-2861(代表)

FAX 03-3861-2862

振替口座 00180-5-66324

JASRAC(出)許諾番号1303469-301

ISBN978-4-8136-0721-2



表 紙：山上 洋一

イラスト：あーむ巧芸

浄 書：ミルテ

組 版：日本制作センター

印 刷：日本制作センター

製 本：日本制作センター

セット定価[本体3,000円+税] (楽譜2000円/CD1000円/分売不可)

小社への御意見・御希望は E-mail info@chuoart.co.jp
ホームページ <http://www.chuoart.co.jp>

本書の無断複製・転載を禁じます。落丁・乱丁本はお取替え致します。